

地方都市（台中）における日本産食品消費動向 アンケート結果に関するレポート

農林水産物・食品輸出支援プラットフォーム
（台湾）

② アンケート概要

- 2024年3月に開催した台中市での日本産食品PRイベント「春の日本食品展」において、来場者向けにアンケートを実施した。
- アンケートでは、台湾中部在住者を中心に日本産食品に対する消費動向を把握するため、日本産食品の購入場所、消費頻度等について聴取を行った。

春の日本食品展

日程:2024年3月16日（土）～17日（日）

場所:ららぽーと台中

開催者:日本台湾交流協会

来場者数:20,000人程度（概算）



アンケート

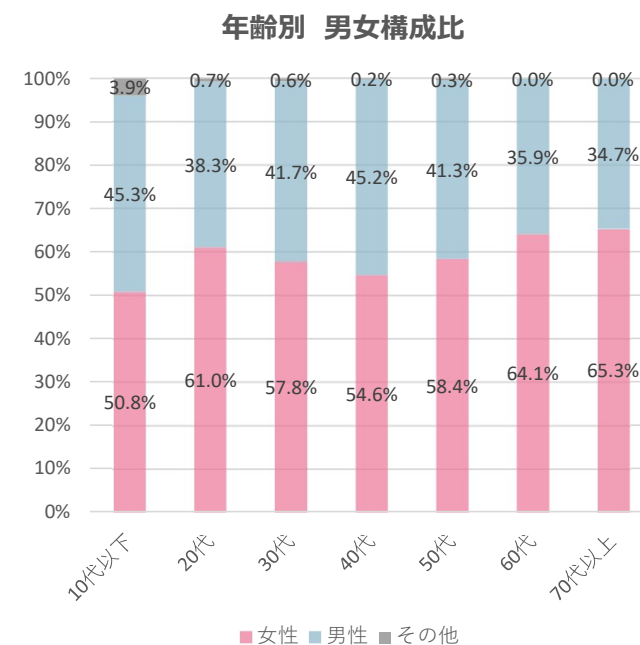
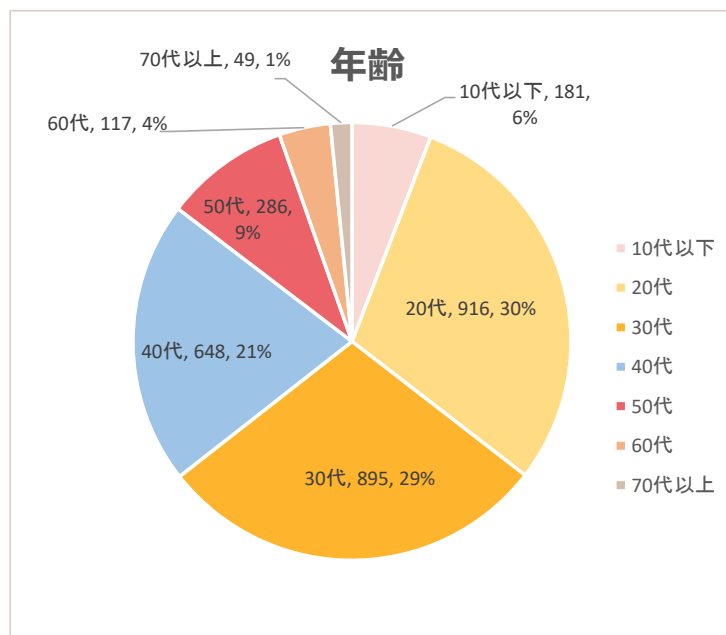
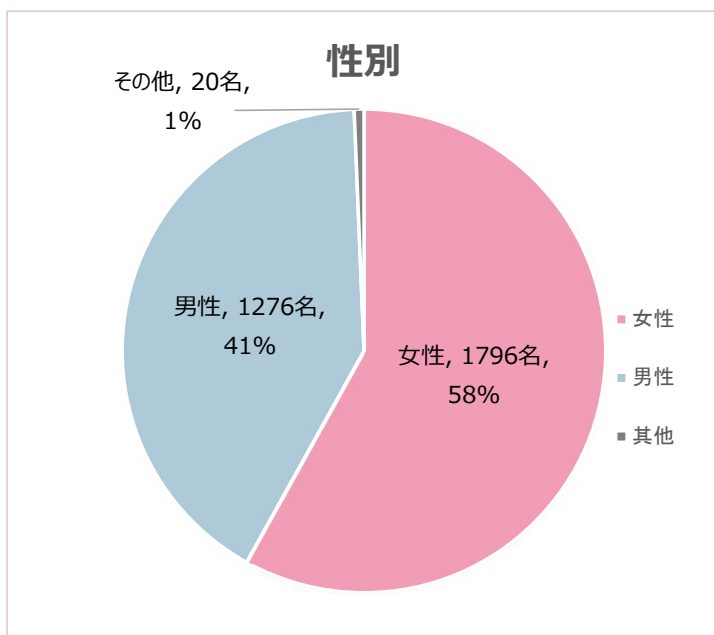
- 実施対象:「春の日本食品展」来場者
- 会場内で来場者にホタテの試食を提供。試食者に対しアンケートを実施。
- 有効回答数 3,092件

●質問項目

- ・来場者の属性(性別、年齢、居住地、職業)
- ・普段日本産食品を購入する場所
- ・普段口にする日本産食品
- ・日本産食品を口にする頻度
- ・日本食の外出に行く頻度
- ・普段口にする日本食の外出 等

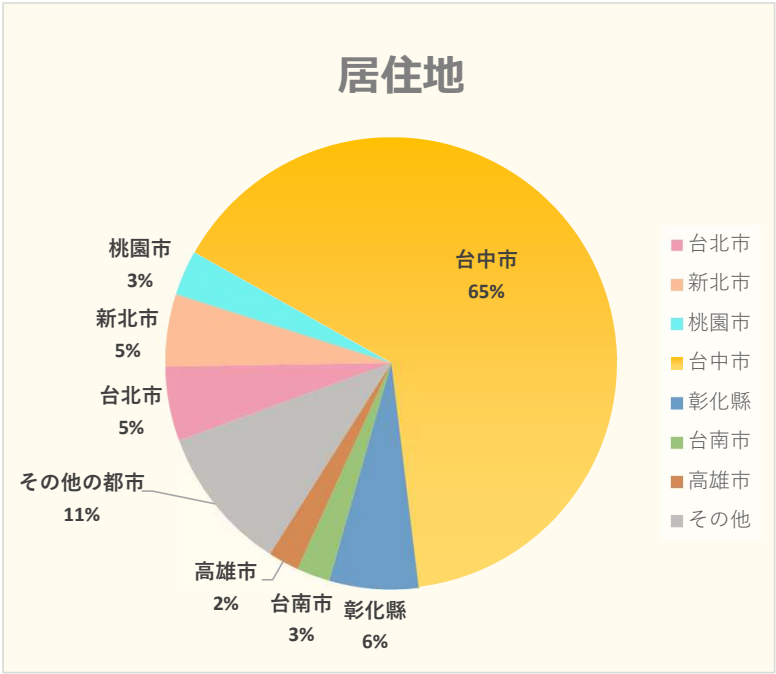
① 来場者の属性 その1

- 女性が1,796名(58%)、男性が1,276名(41%)回答。
- 回答者のうち、約8割を20代から40代が占めた。来場者についても、家族連れでショッピングの際に立ち寄る様子が多く見られた。
- 男女構成比について、各年代とも女性が多かった。

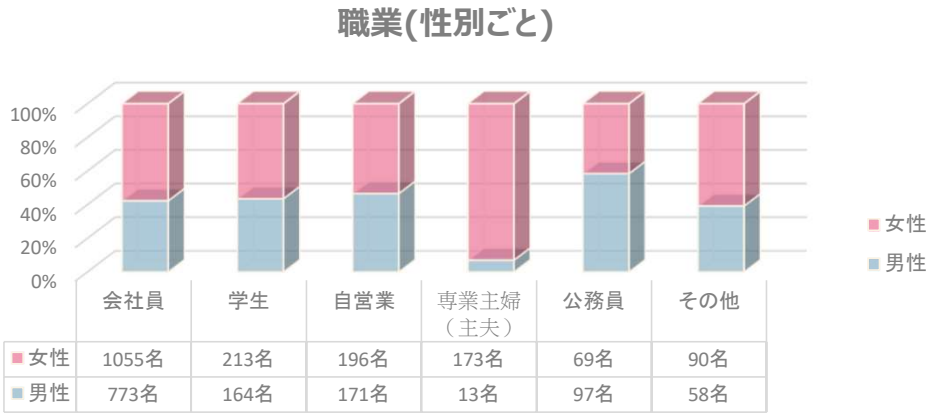


② 来場者の属性 その2

- 台中市からの来場者が最多で、全体の約65%を占めた。次いで、台湾の北部、南部からの来場者も見られた。
- 職業については、会社員が最多で6割近くを占めた。



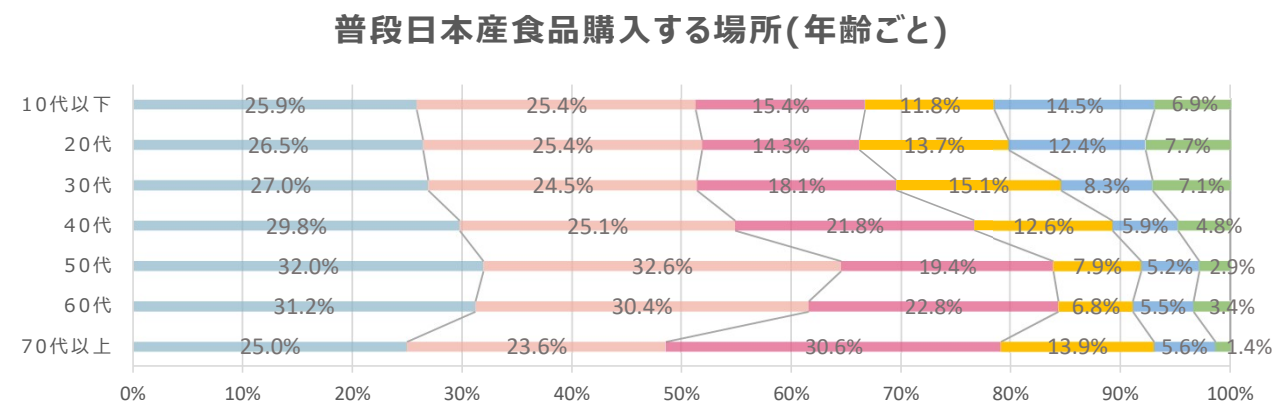
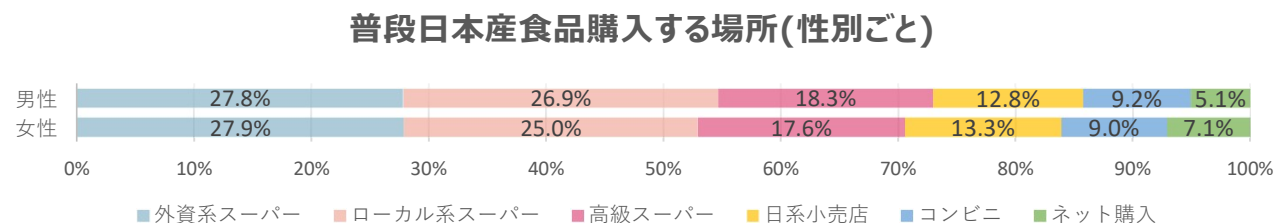
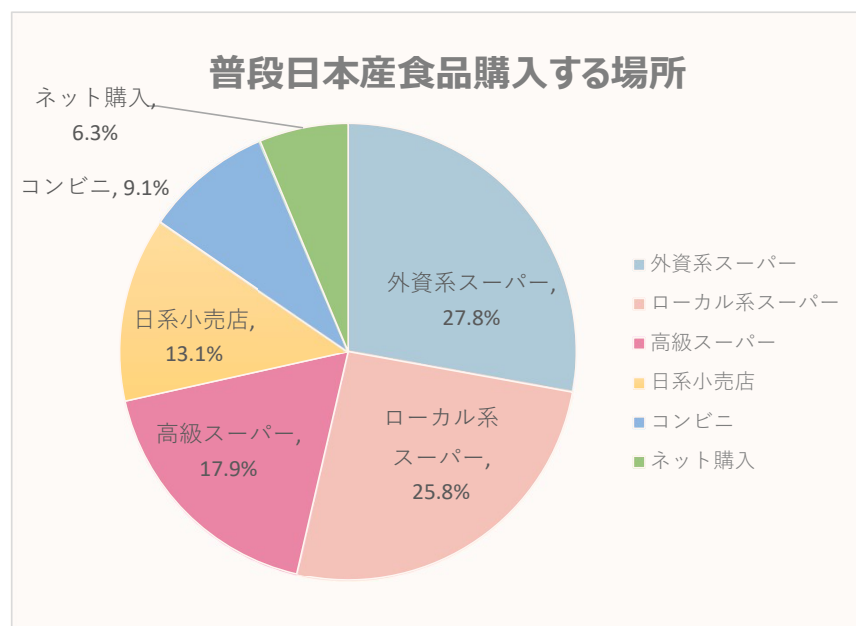
会社員	1836名
学生	383名
自営業	371名
専業主婦（主夫）	186名
公務員	166名
その他	150名



居住地	男	女	その他	合計
台湾北部	216	312	6	534
台湾中部	967	1364	10	2341
台湾南部	84	107	4	195
台湾東部	0	4	0	4
台湾離島	0	2	0	2
その他	9	7	0	16
総合計	1276	1796	20	3092

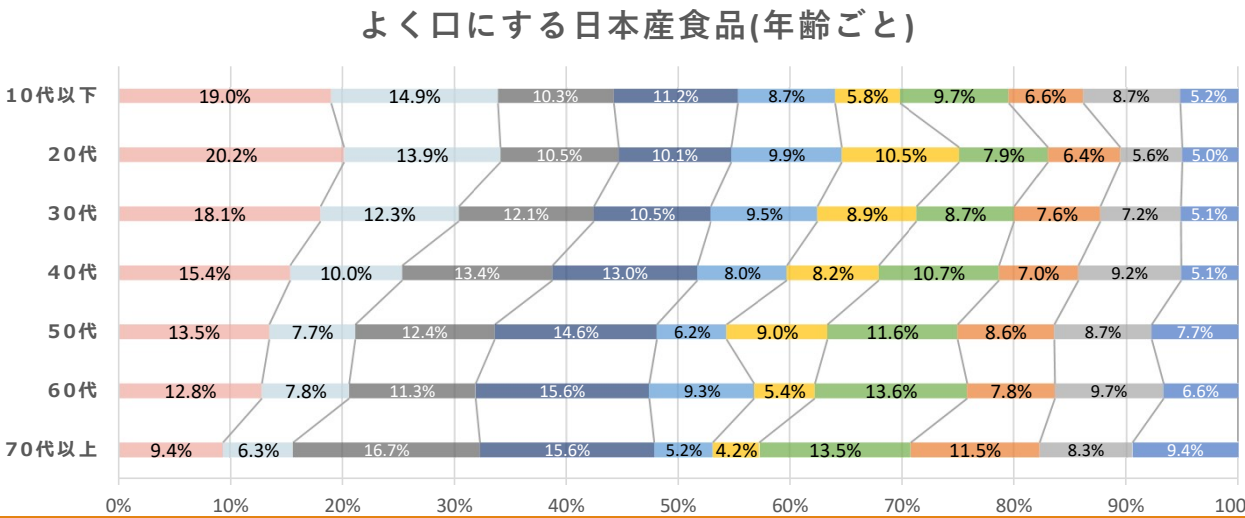
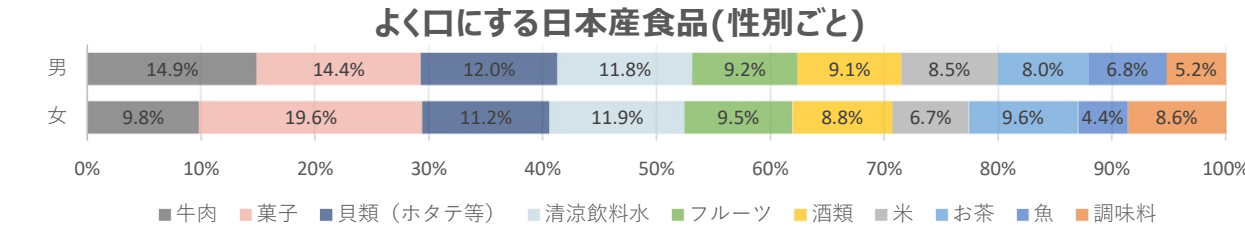
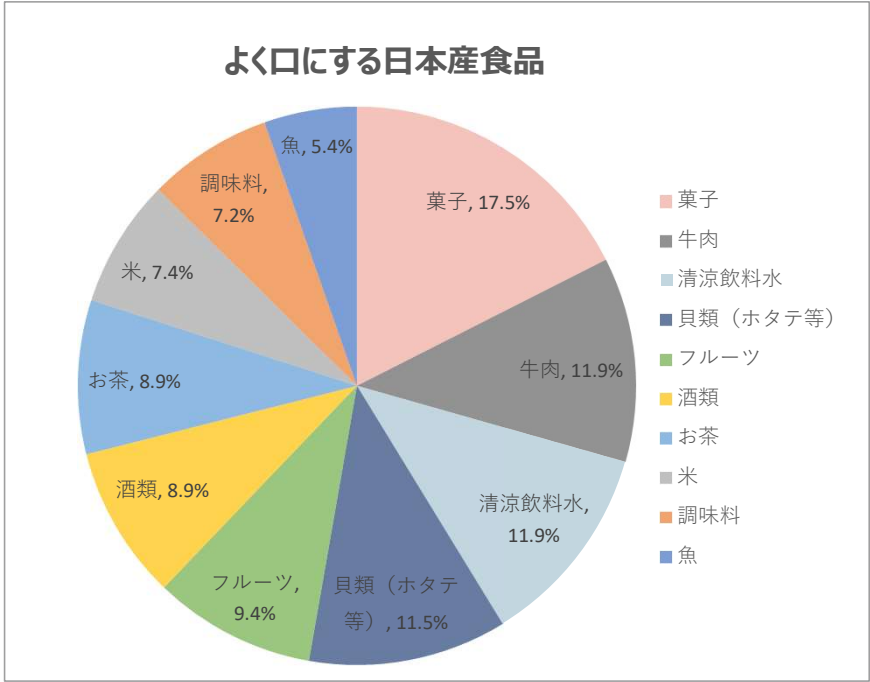
③ 普段日本産食品を購入する場所

- 外資系及びローカル系のスーパー(非高級店)で購入するケースが5割以上を占め、特に50代および60代は両者を合わせて6割超を占めた。
- 高い年代ほど高級スーパーで購入する傾向が見られた。70代が最多(3割超)。
- 日系小売で購入する割合は全体の1割を占めた。
- 10～30代ではコンビニ、ネット購入が占める割合が、他の年代に比べて高かった。



④ 普段口にする日本産食品

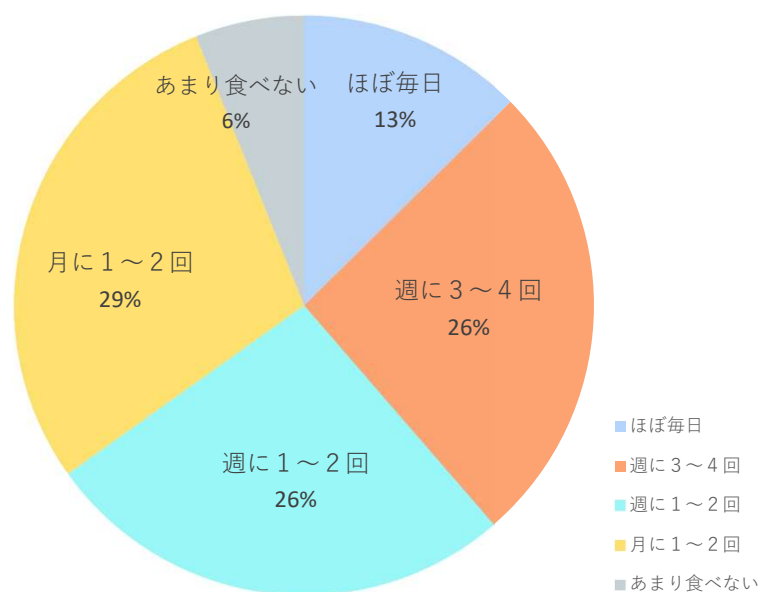
- 全体では菓子が最も人気が高い。牛肉、清涼飲料水、貝類(ホタテ等)で5割超を占める。
- 菓子、牛肉、清涼飲料水など、男女別、年代別で摂食頻度に差が見られる品目があった。
- 菓子、清涼飲料水は年代が若いほど人気が高く、牛肉、ホタテ、フルーツは年齢が高い層で人気が高かった。



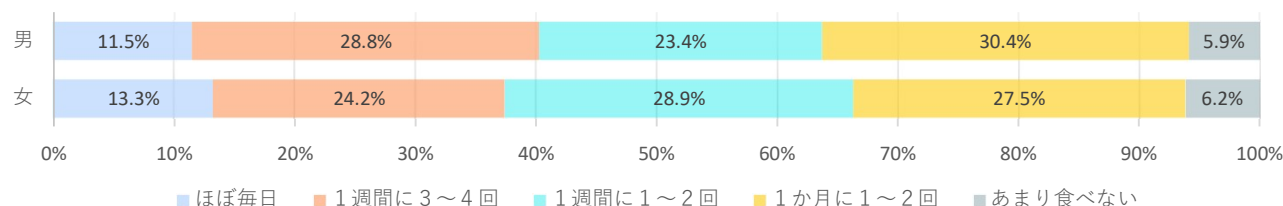
⑤ 日本産食品を口にする頻度

- 「週に1～2回」以上の頻度で日本産食品を口にする者が全体の約65%を占めた。
- 男性では「月に1～2回」が最多。女性では「週に1～2回」が最多であった。
- 「あまり食べない」層は10代以外は1割以下、10代も「ほぼ毎日」食べる層は全年代中2位の割合であった。

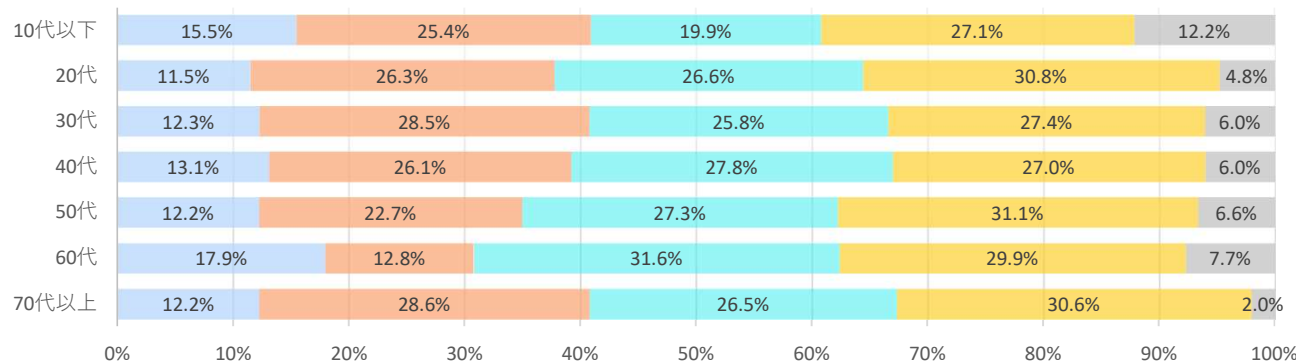
日本産食品を口にする頻度



日本産食品を口にする頻度(性別ごと)

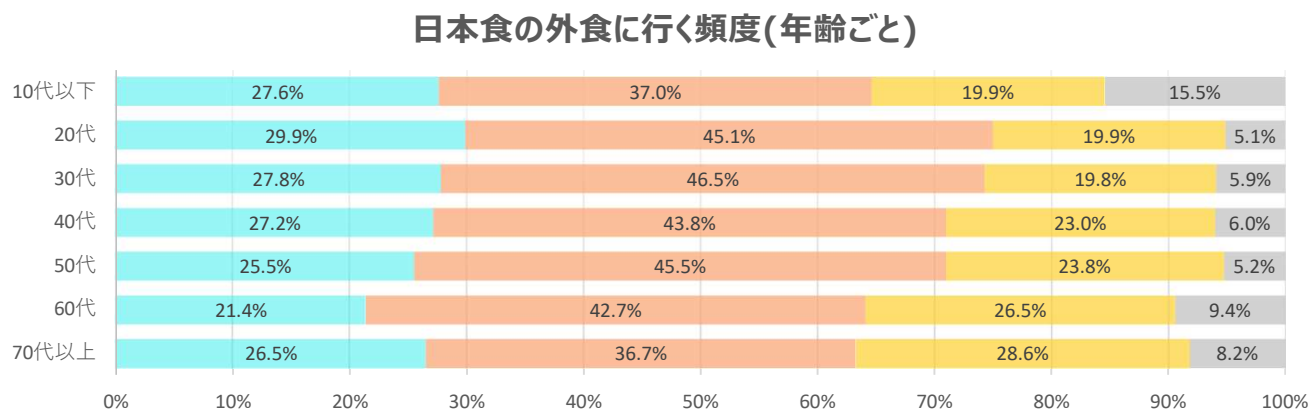
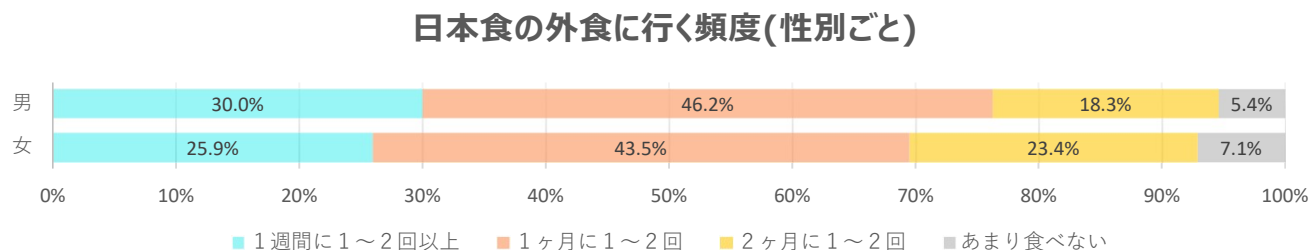
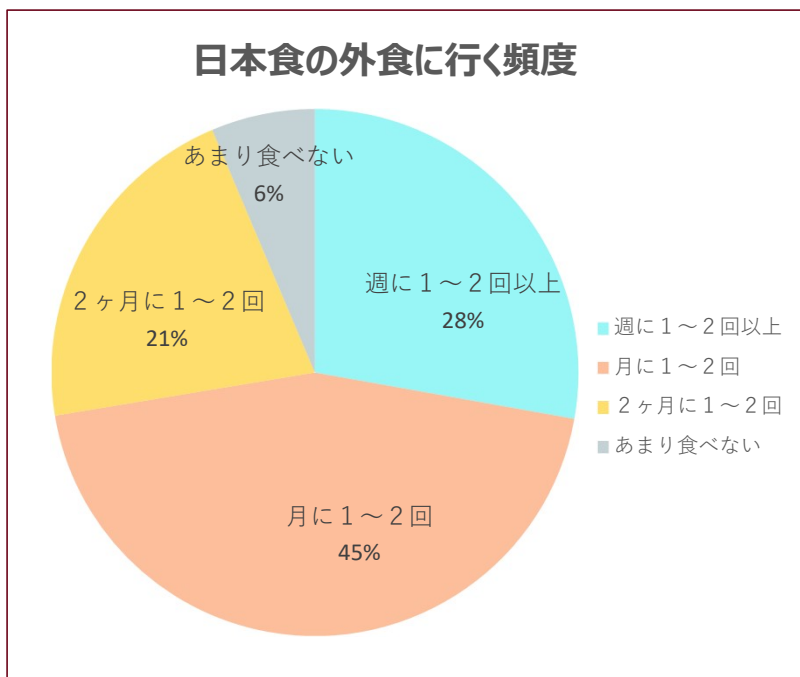


日本産食品を口にする頻度(年齢ごと)



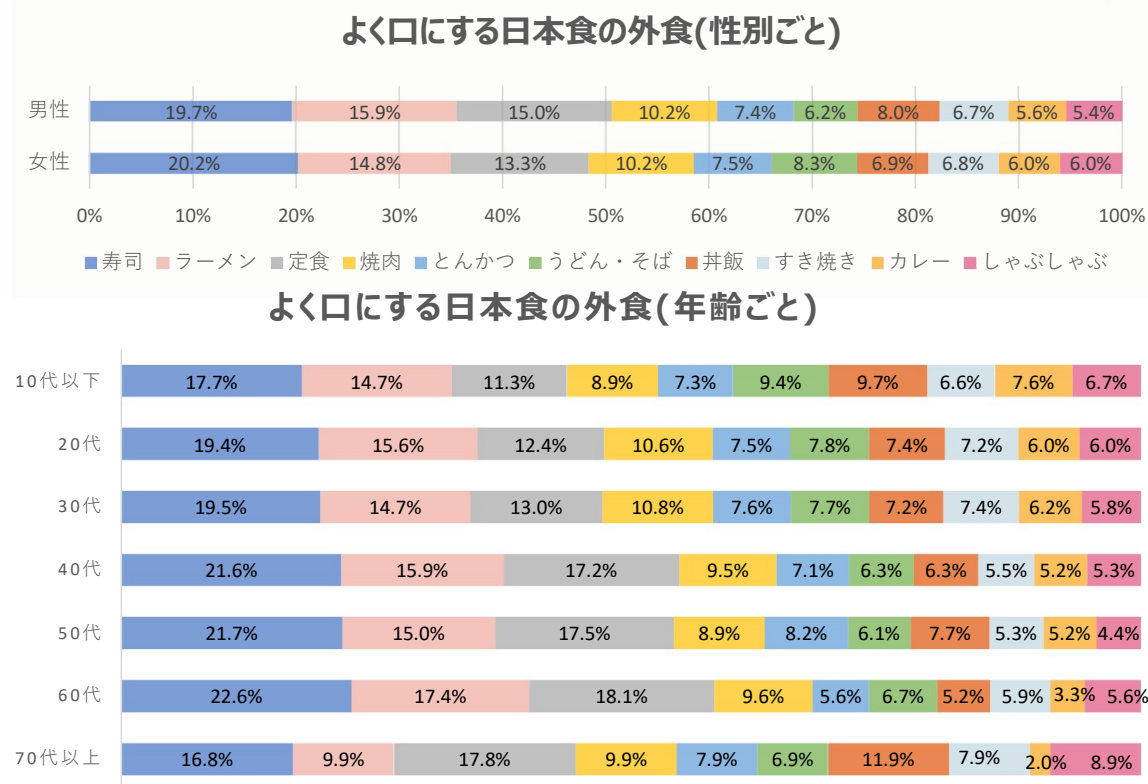
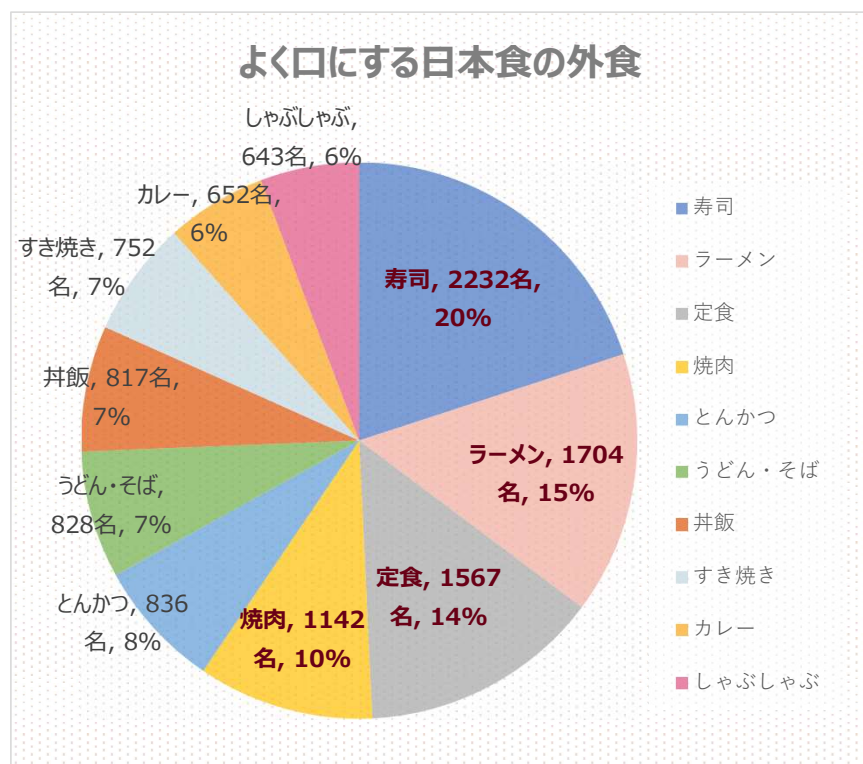
⑥ 日本食の外出に行く頻度

- 「月に1～2回」以上の者で全体の75%弱を占めており、台湾の人々の生活に日本料理の外出食が根付いている様子が見られた。
- 10代を除き、「あまり食べない」の割合は、10%を下回っていた。



⑦ 普段口にする日本食の外食

- 寿司、ラーメン、定食、焼肉で約6割を占め、20～60代では、58%～68%であった。
- 上記の4カテゴリーは、男女別、年代別において、順位の変動はあるものの、上位4つを占めていた。



⑧ (参考)アンケート、選択肢一覧

1.性別

男性、女性、その他

2.年齢

10歳未満、10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上

3.居住地

台北市、新北市、桃園市、台中市、台南市、高雄市、新竹県、苗栗県、彰化県、南投県、雲林県、嘉義県、屏東県、宜蘭県、花蓮県、台東県、澎湖県、金門県、連江県、その他

4.職業

会社員、自営業、公務員、学生、専業主婦/主夫、退職済、その他

5.ふだん日本産食品を購入する場所（複数回答可）

ローカル系スーパー、外資系スーパー、高級スーパー、日系小売、コンビニ、ネット購入

6.普段口にする日本産の食品（複数回答可）

米、牛肉、フルーツ、魚、貝類（ホタテ等）、お茶、調味料、菓子、清涼飲料水、お酒（日本酒、焼酎、ウイスキー等）、その他

7.日本産の食品を口にする頻度

ほぼ毎日、1週間に3～4回、1週間に1～2回、1月に1～2回、あまり食べない

8.日本食の外出に行く頻度

週に1～2回以上、月に1～2回、2か月に1～2回、あまり食べない

9.ふだん口にする日本食の外出

寿司、ラーメン、定食、焼肉、とんかつ、うどん・そば、丼飯、すき焼き、カレー、しゃぶしゃぶ

※この他、本イベントのブースに関する設問等も設けたが本レポートでは省略している。
また、回答数が少ない設問等については、記載を省略したものもある。

(注意事項)

- ・本資料に起因して発生した損害・不利益等において、公益財団法人 日本台湾交流協会は一切の責任を負いません。
- ・本資料の無断引用、転載を禁じます。

【本資料に関するお問い合わせ先】

公益財団法人 日本台湾交流協会
日本産農林水産物・輸出支援プラットフォーム(台湾) 事務局

電話番号 : 886-2-2713-8000

メール : taiwan-pf-k1@tp.koryu.or.jp